

1 テーマ及び設定理由	
<p>〔テーマ〕</p> <p style="text-align: center;">「 プロフェッショナル・アイズ 2nd 」</p> <p>〔設定理由〕</p> <p>平成19年度学力向上フロンティア校として、当初の計画に基づき各種プログラムを実施した結果、特に1年生においては顕著な学力向上が見られ、また、副産物として創立以来初となる様々な実績を生み出し学校活性化に大いに貢献した。しかし、当初の目標に到達しなかったプログラムやその運用法等に課題も残している。また、研究活動プログラム等においては、継続中のものも多く、課題を解決するとともに予算を獲得し次期ステージにつなげていく必要性を感じている。</p> <p>そこで、今回のテーマは前回（1st）のテーマを踏襲し、「プロフェッショナル・アイズ 2nd」とした。1stで実施し定着してきた取組を基盤に据え、2ndではプログラムの一部変更や見直し、強化ポイントを明確にし、新たにモチベーション向上プログラム等を加え、生徒の意識を最大限高揚することにより基礎学力向上を図るものとした。</p>	
2 当該年度の到達（数値）目標及び目標達成のための具体的方策 ☆ 新規	
<p>〔当該年度の到達目標〕（一部）</p> <p>☆（1）家庭学習時間：家庭学習をしていない生徒数の50%以上の減少及び学習時間の30%以上の増加を図る。</p> <p>☆（2）学力向上：学力段階や希望進路に応じた学力向上（向上率5ポイント）を図る。</p> <p>☆（3）研究等活動：調査を10件以上、大学や研究機関等との共同研究件数を5件以上（継続分含む）を実施する。</p> <p>☆（4）生産・販売活動：消費地（地元・京阪神地区）の消費者意識を調査・分析し、次年度の生産計画を立案する。</p> <p>〔具体的方策〕</p> <p>（1）運営面</p> <p>学校経営計画の中核に据え、学力向上フロンティア推進会議にて内外の調整や連携、進捗状況の把握、課題解決に向けての取組を積極的に実施する。特に、地域との連携を深めるための地域連携会議を新たに設け、教科横断（専門・普通科間）や家庭学習の定着や校内検定（「海洋マイスター」）を推進させるための教科会議を充実させる。</p> <p>（2）研究開発プログラム</p> <p>ア 基本的に1stで取りかかった研究や開発について継続し、その内容を深化や完遂させる。</p> <p>☆イ 大学・研究機関・高校（他学科）等と可能な限り連携し、内容を充実及び発展させる。</p> <p>（3）生産販売プログラム</p> <p>☆ア 1stで各科が開発・育成・試作したもの等について、「KMH (Kyoto Marine Highschool)」(仮)ブランドの定着を意識し、販売方法やルート等を工夫し販売する。(ロゴマークの定着、全国産業フェアの活用)</p> <p>☆イ 1stで試行した海洋市場（本校）・アンテナショップ・チャレンジショップ等の経験を生かし、産官との連携を強め、商品開発や地域ブランド（特産品）の確立、提携店でのコーナー常設を目指し生産力を向上させる。</p> <p>（4）資格取得プログラム</p> <p>☆ 進路補習の学年毎に「資格講座」を新たに設置し、年間計画に基づいた通年のサポートシステムを構築する。</p> <p>（5）学力伸長プログラム</p> <p>ア 習熟度別授業の運用法や課題、補習等の徹底など「授業を改善」し、学力向上を「授業で改善」させる。</p> <p>イ 1stで導入した外部試験等による基礎学力評価を継続し、さらに個に応じた外部試験を効果的に導入する。</p> <p>☆ウ 1stで試行した大学進学希望者向け個別サポートシステムを本格運用し、「準備から合格まで」の一貫したきめ細かな徹底したサポートを実施し、同時に教員の指導力のスキルアップを図る。</p> <p>☆（6）モチベーション育成プログラム</p> <p>ア 本校独自の生徒データベース（成績・欠席・資格・外部試験・部活動・家庭学習時間・ボランティア・生活・進路目標等）を構築し、効果的な助言やプロフェッショナル・アイズ到達度等を加えた出力書式を作成する。</p> <p>イ 考査毎に更新・集計・出力し、面談等を通じて生徒・保護者に状況を正確に理解させるとともに、モチベーション向上に努める。</p> <p>☆（7）イノベーションプログラム</p> <p>ア 専門用語と一般常識の知識レベルを問う校内検定「海洋マイスター」を新たに企画し、毎月の月末に実施する。</p> <p>イ 生徒の自主性を最大限引き出す練習課題や問題作成を心掛け、進路を意識したバランスの取れた内容にする。</p> <p>☆（8）ステューディアプログラム</p> <p>ア 教科間連携を密に取り、専門分野で求められている普通教科の位置づけを、シラバス等を用いて明確にする。</p> <p>イ 日常の学習課題を整理・監督し、他のプログラムとの関連性を意識した課題と教科の課題とのバランスを図る。</p> <p>ウ 家庭学習時間の調査を徹底して行い、個人の状況を把握しながら面談や上記(5)の個票等を用いて改善を図る。</p>	

3 事業概要 ☆ 新規

〔到達目標〕



進路保障

- ・自己アピール
- ・モチベーション
- ・即戦力養成など

学力伸長プログラム

- ☆授業改善
- ・一斉外部試験での実力判定
- ☆個別サポートシステム
- ☆学力向上強化月間の設定

〔現状の授業を改善し、学力向上を授業での学習活動をベースに改善する。また、外部試験等での学力把握や個別サポートシステムを定着させる。〕

専門性

学力転化

基礎学力

〔意識高揚〕



☆モチベーション向上プログラム

- ・データベース作成、管理
- ・独自の個人票の開発

☆イノベーションプログラム

- ・海洋マイスターの導入
- ・基礎基本事項の定着

☆ステューディアスプログラム

- ・教科横断の推進
- ・家庭学習の定着、促進

〔基本3本柱を最大限学力向上に結びつけるため、生徒の意識を向上させるプログラムを新たに導入する。〕

〔強化ポイント〕



ポイント1

地域振興

ポイント2

連携促進

ポイント3

取得促進

〔基本3本柱〕

研究開発プログラム

- (研究テーマ 例)
- ☆ナスカザメの加工法
- ・選択網の共同開発
- ☆ヒトデ・カキ殻等の堆肥化
- ☆トラフグの雌雄操作
- ☆未利用資源のブイヤベース

生産販売プログラム

- (実習製品 例)
- ・トリガイ
- ・日本海深層水塩
- ☆溶接技術を生かした製作物
- ☆トラフグの提携販売
- ☆レトルト食品

資格取得プログラム

- ・モデルプラン化の定着
- ・資格担当者会議
- ☆情報発信「見える化」
- ☆資格補習の通年実施

〔地域に貢献できるテーマを各学科で検討し、調査・研究・開発を進める。また、関係機関(大学・高校・研究機関・企業)との連携を深める。〕

〔KMHブランドや地域ブランド化を推進し、地域活性化を意識したトラフグ、トリガイ等の販売を実施する。全国産業フェアでは、京都府北部の水産物をPRする。〕

〔モデルプランを推進し定着を図るとともに、資格補習の講座を新たに設けて、資格取得のサポートを年間通じて運用上行えるように工夫し、前年度の課題を克服する。〕